

# 今を未来に



学ぶことが楽しい学校 だいすき・つながる・じっくり・やってみる・すこやか・まなぶ



## NRT、みえスタディチェック、全国学力・学習状況調査の結果から

1学期に、全国学力・学習状況調査(6年生)・標準学力検査NRT(2～5年生)・みえスタディチェック(4・5年生)を行いました。この検査は、4月に行い、前年度の学年(例:2年生であれば1年生の時)の学習内容をどれだけ身に付けているのかを検査するものです。新しく出会った学年の子どもたちの学力面での強みと弱みをつかみ、授業改善に生かすことを目的に行っています。

以下に、今年度の2年生から6年生までの学年の結果をお伝えします。また、「強み」や「弱み」の分析や、それに合わせた指導の工夫・改善などについてお知らせします。

みえスタディチェック、NRTについての個人票は1学期懇談会にてお渡ししました。全国学力・学習状況調査につきましては、2学期にお子様に返却いたします。個別の詳しい結果についてはそちらをご覧ください。

分析結果を公表するにあたり、その学年の「強み」「弱み」を的確につかみ、授業改善・工夫すべき点を確認しました。そして、家庭学習に関わることは、お子様一人ひとりに自覚して欲しいと思うこと、家庭で気を付けて協力して欲しいと考えていることを書きました。ぜひご一読ください。

### 【到達度検査の結果からの学校全体の状況】

#### 本校の強み・・・どの問題にもあきらめずにとりくむ姿勢がある

どの学年も、学習にもあきらめずに「やってみよう」という気持ちで取り組むことができている。

国語の「話す・聞く」は、本校では高学年になるにつれて到達度が高くなる傾向があり、友だちと互いの思いを聞き合い、伝え合う活動を重視してきた学習活動の積み重ねの成果であると考えます。日々の授業の中で、自分の思い、考えを持ち、相手に伝え、再考していくことをこれからも大切にしていきます。

#### 本校の弱み・・・国語「書くこと」・算数「図形」

国語の「書くこと」は全国的に平均正答率が低く、課題となっています。本校においても同様に正答率が低く、あらゆる教科での学習活動で力を入れている領域です。強みに出てくる「話す・聞く」は、自分の考えを持ち、その考えと対比したりすることが大切になりますが、本校は、自分の考えを言葉にして書くということに課題があることがわかりました。

算数では、着目したいのが「図形」です。図形の意味や性質を理解し、説明したり、求めたりすることに課題があると言えます。図形の性質や意味を理解し、問題に取り組むには、自分の頭の中で図形をイメージし、分解したり、つなげたりすることが必要になります。それが頭の中でできるようになるには、具体物に触れたり、タブレットで図形を動かしてみたりするなど、子どもたちがよりイメージを持てる活動をしていきます。

#### 指導の工夫・改善

- ①自分の考えを持ち、書く学習活動の展開
- ②選択型・短答型を様々な学習活動で積み重ね、記述型で答えられる力を養う
- ③図形の性質や意味を理解し、活用し、解く学習活動
- ④作文指導・読みあう活動
- ⑤ICTの活用ミライシードの反復学習、シュミレーションを使って実際にできないことをやってみる体験をする

右に示した問題は、全国学力学習状況調査の算数の問題で全国的に正答率が低かったものです。本校の6年生の正答率の中で、1番低かった問題でもあります。

三角形の底辺の長さが同じであれば、高さが具体的に示されていない場合であっても、テープの幅が同じであるということは、見た目はちがうけれど、三角形の高さは同じであるということを理解していないと解けない問題です。三角形の面積の大小を判断するのに必要なのは、底辺と高さの長さになります。三角形の底辺の長さと同じであれば、三角形の面積は等しくなるという性質が理解できているかどうかが問われます。見た目がちがうけれど、面積が同じになるのかの理由（根拠）を書くことができませんでした。子どもたちは書くことに苦手意識を持っています。その抵抗をなくしていけるように、段階的に指導していきます。穴埋めの文章で授業の振り返りをしたり、キーワードをもとに自分の考えをまとめたり、字数制限や条件のもと自分の考えを書いたりするなど、学年に応じたスモールステップで、自分の考えを書く活動を行っていきます。

児童に一人一台タブレットが導入されて4年になります。授業でのICT機器の活用をはじめ、ミライシードでの反復学習や自分でつまづきを見つけて解決する学習ができるように支援をしていきます。

以上のことを教職員で共有し、学校全体で指導の工夫改善を進めていきます。

## 【6年生 全国学力・学習状況調査の結果より】

### 1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語は、全国平均並みでした。算数は、どの領域も全国平均を下回り、子どもたちの課題が浮き彫りになりました。教科ごとに内容や領域、問題別に分析すると、以下のような強みや弱みが見えてきました。

### 2. 「強み」と「弱み」にかかわって

- (強み) 国語 ◎「話すこと・聞くこと」において、どのように話すかを書き、内容を正しくとらえる  
算数 ○「変化と関係」において、伴って変わる2つの数量について、表からの変化の特徴を読み取り、知りたい数値を求めることができる  
○正方形の意味や性質について理解している
- (弱み) 国語 △「書くこと」において、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する  
△「読むこと」において、文章を読んで、理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる  
算数 △正三角形の意味や性質について理解している  
△「図形」において、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係をもとに面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語・算数の共通の強みは、資料などから情報を読み取ることができているという結果となりました。課題となるのは、読み取った情報を活用し、自分の考えを「書くこと」でした。何をしなければいけないのかを問題文から読み取り、いくつかある資料の中から、必要な情報を読み取ることができても、その情報を活用し、自分の考えを文章にするということに対して「苦手意識」があることが分かりました。国語や算数だけでなく、どの教科においても、資料を活用して書くことや、様々な情報の中から選択し文章にまとめること、自分の思いや考えを文章に表現する機会を多く設定していきます。

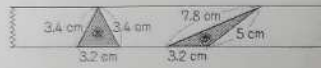
また、「書くこと」で自分の考えを整理し、文を順序立て、論理的に書くことができるように、キーワードを使用して書いたり、条件を付けて書いたりしながら、文章を書く力を培っていきます。そして、自

**図形**

◇正方形の意味や性質について理解することはできている。(⇒大問2(2))

◆高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見だし、その理由を記述することに課題がある。

**具体的な設問例 (大問2(4))** テープを直線で切ってつくった2つの三角形の面積の大小を判断し、その理由を説明する。



**正答率: 21.1%**

1 ②の面積のほうが大きい。  
2 ②の面積のほうが大きい。  
3 ②と③の面積は等しい。  
4 ②と③の面積は、このままでは比べることができない。

〈正答例〉【番号】 3  
【わけ】 三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。②と③の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。②と③の高さは、テープのはばがどちらも同じ長さなので等しいです。だから、②と③の面積は等しいです。

〈誤答例〉【番号】 4  
【わけ】 高さが書かれていないので、このままでは面積を求めることができないから。 ……16.8%

**誤答例の分析と課題**

このように解答した児童は、2つの三角形の高さが同じであるということに気付くことができていないため、具体的な数値が示されていないので比べることができないと判断したと考えられる。

分の思いや考えを書いたものを、互いに読み合ったり、聞き合ったりすることで、「話す・聞く」の力もつけていけるような授業・指導を行っていきます。

さらに、「書くこと」においては、話の時系列を整理したり、主語・述語などの文法を意識して書いたりする、そして言葉の使い方や意味から適切な言葉を選んで書いたりするなど、文章で相手に正確に伝えられるような基礎的な力も定着させていきます。

算数においては、図形の性質を理解・活用し、解くという問題の正答率がとても低い結果となりました。図形によって様々な性質があり、この問題の解を求めるためには、何がわかると解くことができるのかを考え、問題を解くにあたっての必要な情報を見つけ、活用していく力をつけていく必要があります。図形の性質をただ覚えるのではなく、なぜその性質になるのかということの理解を深め、性質を使いながら自分の考えを書き、話すということも大切にしていきます。

### 《具体的な取り組み》

- (国語) ・自分の思いや考えを持ち、書く活動を行う。
  - ・適切な言葉の使い方をプリント等で学習する。
  - ・様々な情報をどう使うかを考え、文章化することを徹底する。
- (算数) ・授業の中で、必要な情報を選択、活用し、問題を解決していく活動を行う。
  - ・「図形」の学習では、ICT機器などの使いながら、理解の定着を図る。
  - ・「図形」の定義や性質を活用する問題などを、朝の学習タイムなどで解く機会を増やす。

## 4. 質問紙から見られる特徴(子どもの学習・生活状況や学校運営に関して課題と考えられること)

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)」で、できている・概ねできていると回答する児童は全体の約3分の2おり、残りの3分の1の児童は困り感を持っていることが分かりました。中学校進学に向けて、自分で計画的に学習を進めることができる力をつけたいと思います。基本的に宿題はその日毎に出しておりますが、課題によっては、この日までに自分で計画的に進めることを目的とした宿題の出し方を行っています。
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用し学ぶ時間も含む)」と「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用し学ぶ時間も含む)」の2つの質問からわかることは、子どもたちは平日においては、6年生の学習時間である70分以上を達成している児童が3分の2以上います。休日になると、70分以上を達成している児童は、全体の約4割も満たしません。このことからわかるのは、休日に自分で学習をするという習慣があまり身につけていないということです。休日にも、学習する習慣をつけておくと、中学校へ進学しても、平日だけで宿題などを終わらすのではなく、自分で計画的に時間を使いながら、課題に取り組めるようになります。そして、自分で何に取り組むか考え、選択し、計画的に行うことができる自主学習にも引き続き取り組んでいきたいと思います。

## 5. 家庭学習にかかわって

1学期同様、「漢字ドリル」「計算ドリル」に加え、「自主学習」を宿題として出していきます。その日の授業の復習や今までに習った学習の振り返りなどが主な内容になってきます。授業で学んでいるときには、分かっていたのだけれど…という声が聞かれます。漢字についても、同様にその学年のときには覚えていたのだけれど、いざ復習をすると書くことができないということもありました。そのため、何度も復習し定着を図る必要があると考えます。中学生に向けて、自分で課題を見つけ取り組む力をつけるためにも自主学習の課題も引き続き出していこうと考えています。そして、子どもたちの課題となっている「書くこと」においては、作文やプリント学習なども週末課題として取り組むことも考えています。

また、家庭学習振り返り週間の結果からインターネット、スマートフォンの利用において課題が見られます。インターネットやスマートフォンが普及する今、ゲームやスマートフォンに依存していないか、ルールが守られているか、学習時間が確保されているのか、家庭学習を始める前には、自分自身で学習環境を整えるということ意識してやってほしいと思っています。ご家庭でお子様が家庭学習にどのように取り組んでいるのかを見ていただき、より学習に集中できる環境を整えられるように、アドバイスしていただくと嬉しく思います。家庭学習の様子で見えてきたこと、思われたことなどについて担任に教えていただくと、今後の指導の改善にもつながりますので、ぜひともお話を聞かせてください。

## 【5年生標準学力検査NRT・みえスタディチェックの結果考察より】

### 1. 国語・算数・理科の全国平均・市平均との比較にかかわって

「NRT」 国語は、「話すこと・聞くこと」が全国平均を上回りました。算数は、全ての領域で全国平均を下回る結果となりました。国語は「主題や構成を読み取る」「考えや感想を持って伝え合う」、算数では「わり算」「角の大きさ」の領域に課題が見られました。

「みえスタディチェック」 国語・算数・理科の3教科ともに、市の平均を下回る結果となりました。

### 2. NRT・みえスタディチェックの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

「NRT」

(強み) 国語 「話すこと・聞くこと」の「話や意見の背景を考え話し合う」は、粘り強く取り組める。

算数 「データの活用」の「表と折れ線グラフ」は理解できている。

(弱み) 国語 「書くこと」「読むこと」特に「考えや感想を持って伝え合う」項目が課題。

算数 「数と計算」「図形」「変化と関係」特に、「わり算」「角の大きさ」「割合」が課題。

「みえスタディチェック」

(強み) 国語 「話すこと・聞くこと」市の平均を上回り、無回答率も低め。目的に応じて調べたことを整理する力は、多くの子が身につけられている。

理科 「地球」市の平均を上回る。特に、「気温の変化」についての問題。

(弱み) 国語 「書くこと」登場人物の気持ちの変化を想像し、どのように音読するかを問われた問題では、正答率が低く、無回答も多い。条件に合わせて簡潔にまとめて書く力に弱みあり。「知識および技能」市正答率よりも10ポイント近く低い。特に漢字を正しく書く力。

算数 「図形」「データの活用」市正答率より10ポイント近く低い。

「記述問題」市平均よりも大幅に低く、「書くこと」が大きな課題。

理科 「エネルギー」市の平均を大きく下回っている。

直列つなぎや並列つなぎ、回路図について、十分に理解できていない。

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

検査結果から、何よりも基礎・基本的な学力の定着が必要であると言えます。

「書くこと」に苦手意識を持つ子が多くいることから、国語の学習においては、「書くこと」に重点を置いて指導していきます。筋道立てて文章を書くために書く内容を整理してから書くことや、主語、述語、接続語などの文法を正しく使って書くことなどを繰り返し指導し、書くための基礎的な力を伸ばしていきます。また、それぞれが書いたものを交流していくことによって、語彙力を増やしたり、言葉の使い方を知ったり、文章構成を互いに学び合ったりできるようにしていきます。各教科の学習の中でも、短い文章を書くことを積極的に取り入れて、伝えたいことを相手に正確に伝えられるようにしていきます。

また、読解力が不足していることも明らかとなりました。読解力をつけるためには、やはり文章を読む経験を積ませることが必要です。読書活動や音読に、今後より一層力を入れていきます。読書や音読に取り組むことは、語彙力を増やし、書く力を伸ばしていくことにもつながります。読書経験の豊かさや素敵な音読を、しっかりと価値づけていくことが大切だと考えています。

5年生の算数の学習は、20人程度の少人数で進めています。少人数だからこそ、「分からない」と相談しやすく、分からないことを放っておかない環境を作ることができています。子どもたちの「分からない」を学習の出発点にし、「分からなかったことが分かった」という喜びが感じられる授業にしていくことを心がけています。授業の中で、既習事項について繰り返し振り返らせていくことも大切にしています。四則計算を定着させるために、毎時間授業の始めに基本的な計算プリントに取り組む時間を設けていますが、2学期以降は、そこでかけ算とわり算の筆算の定着を図っていきたいと思います。反復練習をさせると同時に、どこで間違えているのかに気づける指導を大切にしていきます。

「図形」の学習に苦手意識を持っている子が多く見られます。今後、図形の学習を行う際に、既習の内容についても関連させて定着できるように指導していきます。図形の学習では、教科書を見たり、問題を解いたりするだけではイメージを持ちづらい子が多いため、具体物を触ったり、タブレットを使って図形を動かしたりしながら授業を進めていきます。「割合」については、数直線を活用して、もとにする量と比べられる量の理解に努めます。また、買い物など実生活に応じた課題を設定することによって、子どもたちがイメージを持ち、意欲的に取り組めるようにしていきます。

理科の学習においても、子どもたちの疑問を出発点にして、なぜそうなったのかを全員が理解できるように授業を進めていきます。実験や観察でどのような結果が出たのか、その結果から何が分かったのか、結果と考察を丁寧にまとめさせることで、子どもたちの思考力を高めるとともに、学習内容の確実な定着を図っていきます。子どもたちが意欲を持ってノートにまとめを書けるように、一人ひとりのノートを評

価したり、上手にまとめられているノートを紹介したりしていきます。また、それぞれの考察を交流する時間を設けて、聞き手にきちんと伝わるように、自身の考えを話す活動も大切にしていきます。

### 《具体的な取り組み》

- (国語) ・書くことを重視し、短文でまとめる活動を増やす。
  - ・音読発表の機会を増やし、読むことの価値づけを図る。
- (算数) ・授業始めの計算プリントで、筆算の定着を図る。
  - ・「図形」の学習では、具体物やタブレットを有効活用する。
  - ・論理的に考えるためのツールとして、数直線の活用を徹底する。
- (理科) ・疑問→結果→考察の流れを丁寧に扱うことで理解を深め、学習内容の定着を図る。
  - ・意欲的に取り組んでいけるノート指導を行う。

## 4. 家庭学習にかかわって

学習内容の定着を図るため、「漢字練習」「計算練習」「音読練習」の3点を、毎日の宿題として出しています。定期的に、「作文」も宿題として出しています。日常の様子を文字にすることは、今の自分の考えや行動がどのようなものかを自身に問う良い機会となります。書く力の向上にもつながり、面倒に感じるかもしれませんが、丁寧に取り組んでほしいと思っています。

1学期の様子を見ると、多くの子が出された宿題に真面目に取り組んで、毎日きちんと提出することができています。一方で、「自主学習」についてはその取り組み状況は様々で、できている子とできていない子がいます。自主学習では、自分に必要な学習を見つけて取り組むことで苦手を克服したり、得意を伸ばしたりすることができます。また、自分に合った学習方法を見つけたりすることができます。与えられた分をこなす力だけでなく、どうしたらより力がつくのかを考えて取り組む力を、これから身に付けてほしいと思っています。自分に合った学習方法を見つけるヒントにしていけるように、学級内でも、それぞれの自主学習を交流する取り組みを行っています。新出漢字を確実に定着させていくためには、家庭学習における漢字練習が必須です。毎日の宿題だけでは不十分な子もいますので、足りない部分はこの自主学習で補ってほしいと思います。与えられた宿題をただこなしているだけでは、その時は分かっていても、すぐに忘れてしまうということになります。分からないことがあれば、辞書を使って自分で調べる、その日に学んだことを再度ノートにまとめ直すなど、定着させるための自分なりの工夫をしていけるようになってほしいと思います。

子どもたちが強い苦手意識や抵抗感を持つ「書くこと」に関わって、家庭学習における「音読」をより大切にしてほしいと思います。国語の教科書を繰り返し声に出して読むことは、「書く」力の向上にも効果があると考えます。教科書のお手本となる文章から、文章・言葉や言い回しなどを音として覚えておけば、それをもとにして自分の文章が書けるようになります。また、音読には、語彙力や読解力を向上させるといった効果もあります。2学期以降、音読の大切さを再度子どもたちには伝えていきます。今後ご家庭における音読練習のサポートをよろしくお願いします。

学習環境も大切です。机の上に unnecessary なものが出ていませんか。下敷きは敷いていますか。学習する姿勢は整っていますか。ダラダラと取り組み、時間だけが長くなっていませんか。学校でも話していますが、集中して学習に取り組めない子もいます。学習内容、学習環境、学習時間が良くなると、より確かな学力の定着につながります。ぜひご家庭でもご確認をよろしくお願いします。

## 【4年生標準学力検査NRT・みえスタディチェックの結果考察より】

### 1. 国語・算数の全国平均・県平均との比較にかかわって

- 《NRT》国語・算数ともに全国平均を下回る結果となりました。特に国語に課題が見られました。
- 《みえスタディチェック》国語・算数ともに市の平均を上回っていました。

### 2. NRT・みえスタディチェックの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

- (強み) 国語：「知識・技能」 「漢字の読み書き」の定着が見られる。
  - 「読むこと」,特に叙述からの読み取りが強み。
- 算数：「数と計算」 四則計算において一定の理解が見られる。
  - 日頃から、分かるまで粘り強く取り組む姿勢があることが伺える。

(弱み) 国語：「話すこと・聞くこと」「指示語」「丁寧語」「話し合い」「立場を明確にして話す」など。無回答も多く、問題の意味を理解していないだけでなく、制限時間内の読み取りができていなかったことも考えられる。

算数：「図形」「測定」特に、「二等辺三角形の定義や性質についての理解」「表と棒グラフ」「数と計算」「四則計算のしくみや性質、関係を図で表すこと」「□を用いた式」など基礎的な計算はできる反面、どうしてそのような計算になったのか筋道立てて説明したり証明したりすることに弱みがある。

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語・算数は、ともに基礎学力の定着は見られます。しかし、NRTにおいては、国語・算数の多くの領域で全国比よりも低い正答率となっており、設問の後半になると無回答率が3分の1を超えている現状から、文章と表や図を用いた複合的な問題の読解に慣れさせていく必要があることが分かりました。

国語では、漢字の読み書きやローマ字、国語辞典の正しい使い方など「知識・技能」において、一定の理解の定着が見られます。一方で、「話すこと・聞くこと」に大きな課題がありました。「指示語」ではこそあど言葉の文法的な役割を復習したり、どの内容を指しているのか読み取る力をつけたりする必要があります。普段の授業や朝の学習の時間で、文法に焦点をあてた学習を取り入れていきます。また、「丁寧な言葉で表す」「立場を明確にして話す」では、与えられた条件や場面に応じて適切な言葉を選んで文章に表すことに課題が見られました。「話型」を示して話し合いをさせたり、いくつかの条件を提示して文章を完成させたりする活動をするこゝで話す・聞く力を伸ばしていきます。

算数は、「知識・技能」に関しては全国比と同等の結果の一方で、「思考・判断・表現」は全国に比べ正答率は下回りました。このことから、計算の意図を言葉で説明したり、知識・技能を応用したりするこゝろに課題があります。

算数の授業では、現在3つのグループに別れて少人数で学習を進めています。少人数だからこそ分からないことを「分からない」と言いやすくなっています。また、発表に関しても自分の考えを伝えようとみんなの前で話す姿も増えています。「分からない」「考えを言葉にして伝えよう」という姿勢から学びを広げていきたいと思ひます。

問題文の読み取りの段階でのつまずきも見られます。問題文を図で表したり、必要な言葉や数を探したりする学習や、自分の考えを図や具体物を使って説明する学習に取り組むこゝでそれぞれに必要な力をつけていきたいと思ひます。

#### 《具体的な取り組み》

(国語) ・漢字の読み書き・ローマ字など、確実な理解の定着を図る。

・「話型」をもとに話し合いをしたり、いくつかの条件をもとに文章を書いたりする活動をする。

(算数) ・「図形」の学習では、タブレット操作や具体物操作を通して理解の定着を図る。

・「分からない」を出発点にして、自分の考えを図や具体物を使って説明する機会を増やす。

### 4. 家庭学習にかかわって

自主的に学習に取り組むこゝろが増えてきています。その一方で家庭学習を雑に取り組むこゝろが目立つようになりました。家庭学習での見直しや答え合わせは、自分の弱みはもちろんのこと、強みも発見できるチャンスです。その両方を理解して、課題や次の目標を明確にし、「できるようにがんばろう」「さらに力をつけよう」とやる気や自信につなげてほしいと思ひます。実際に、家庭学習で自ら教科書を見て取り組んだり、自主学習でさらに反復練習したり、漢字ドリルだけではなく辞書を用いて学習を進めたりしているこゝろは学力の定着が見られます。見直しや答え合わせだけではなく、毎日の学習を丁寧にこゝろに取り組むこゝろで確かな学力につなげていきます。

宿題は主に「漢字ドリル」「計算ドリル」を用いて反復学習を行っています。また、「音読」は語彙力や読解力の向上につながるといった効果があります。4年生の学習は、今後の学習の基礎となる重要なものばかりです。特に、算数は積み重ねこゝろが次への学習のモチベーションにもつながります。今後も、子どもたちのつまずきや課題を把握し、近くで見守ったり、サポートや助言をしたりできるように、保護者のみなさんと一緒に協力しながら家庭学習を進めていきたいと思ひます。

## 【3年生標準学力検査NRTの結果考察より】

### 1. 国語・算数の全国平均・県平均との比較にかかわって

国語は、「話すこと・聞くこと」が全国平均と同等の結果となり、「書くこと」「読むこと」は平均を下回りました。算数は、どの領域も全国平均よりも低く、特に「測定・データの活用」に課題が見られました。

### 2. NRTの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語 「大事なことを聞き取る」「言葉の対応に気を付けて話す」「片仮名、漢字の書き、言葉の意味」「漢字の読み、主語と述語の理解」は十分な力がついている。

算数 「数の構成と表し方」は全国平均とほぼ同等の力がついている。

(弱み) 国語 「読むこと」につながる「話の内容の大体をとらえる」「文章を読み感想などを伝え合う」

算数 「測定・データの活用」 「長さ、かさ」⇒正しく単位を選ぶ、「時間の単位」⇒日・時の関係や時・分の関係をつかむに課題が見られる。

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

どの学習においても、子どもたちが話題に沿って話を聴いたり、何を問われているのかを捉えたりできるように、ポイントになることを視覚化しながら学習を進められるようにしていきます。また、2年生までに学習した内容を学習活動や学校生活などで取り上げるなど、繰り返し生活の中で活用していきようにしていきます。

「話の内容の大体をとらえる」ためには、文章を短く区切りながら、ポイントとなる言葉に注目して文章を読んでいく必要があると考えます。国語の教材を読むときには、初めにどんなお話だったか、どんな内容が書かれていたか共有しながら読解する力をつけていきます。また、わからない言葉がある場面が多く見られるので、国語辞典を活用し、語彙を増やすよう取り組みます。

算数では、「長さ、かさ」「時間の単位」など生活の中で使う学習内容がなかなか定着していないから、意識的に時計を読む活動や量感をつかめるような取り組みが必要であると考えます。

また、四則演算など基本的な知識技能を定着させられるよう、朝学習や家庭学習で反復学習を進めていきます。

#### 《具体的な取り組み》

(国語)・漢字の読み書き、言葉の意味を調べる活動をして、語彙を増やす。

・読んだ文章から内容を説明する活動を入れる。

(算数)・朝学習や家庭学習で、既習の計算学習をし、定着を図る。

・量感を視覚的、体験的につかめるような活動をし、単位の定着を図る。

### 4. 家庭学習にかかわって

「漢字」「計算」「音読」の流れが整ってきている子が多くなってきました。課題にもあるように、音読をただ読むだけになってしまっているのではないかという心配があります。話の内容を簡単に説明できるように、どの段落にはどんなことが書いてあるとつかみながら音読するなど、音読にめあてを持って取り組ませていきます。また、わからないことをそのままにしまわれないようにわからなかった問題や自信のない問題には印をつけることで、自分で調べて解決したり、答えにたどり着くまでの説明を一緒に考えたりできるように取り組んでいきます。さらに、2学期からは自分のやりたい学習を自分から取り組めるよう自主学習の共有をしていきたいと思えます。

## 【2年生標準学力検査NRTの結果考察より】

### 1. 国語・算数の全国平均・県平均との比較にかかわって

国語と算数の正答率は、ともに全国平均と比べると少し下回る結果となりました。国語では、特に「話すこと・聞くこと」の領域が課題です。算数では、「数と計算」「図形」の領域に課題があります。

### 2. NRTの結果の「強み」と「弱み」にかかわって

- (強み) 国語 「文や文章を正しく書く」「はへを、句読点、平仮名の書き」「漢字の読み、言葉のまとまり」については全国平均を上回る結果となった。また、「文章を読み感想などを伝え合う」については、全国平均を大きく上回り、力がついている。
- 算数 「長さ、広さ、かさ」「時刻の読み方」「絵や図を用いた数量の表現」については全国平均を上回る結果となり、十分な力がついている。
- (弱み) 国語 「話題を決め、伝える内容を選ぶ」「相手の話に関心を持ち話し合う」「重要な語や人物の行動をとらえる」については全国平均を大きく下回り、課題となった。
- 算数 「数の構成と表し方」「たし算とひき算」「ものの形、ものの位置」について全国平均を下回り、課題となった。特に「数直線上の数」や「式の読み取り・減法」は、さらなる復習が必要である。

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語では、「話すこと・聞くこと」に課題があります。授業の中で、自分の意見を発表する場面を多く取り入れ、伝えたいことを話すことに慣れる活動を行っていきたいと思います。伝えたい内容を相手にわかりやすく伝えるために、「まず」「つぎに」「さいごに」などの話す順序を表す言葉を用いたり、簡単な構成メモをもとに内容を整理したりしていきます。発表している内容をしっかり大切なことをおとさず聞き取ることをします。相手の話を聞いて、自分の思いや考えをまとめ、相手に伝えることを大切にしていきます。

今回の NRT では、「漢字や言葉」が強みとして出てきましたが、1年生の内容項目から出題されています。そのため、2年生に進級し、漢字や言葉も増え、難しいと感じる子どもも多くいるように感じます。朝学習の時間や国語の時間を使って漢字や言葉の定着を図ります。

算数では、計算や図形の領域に課題が見られ、基礎基本の定着が必要です。「時刻の読み方」は強みとなっています。しかし、2年生の「午前」「午後」を用いた時刻の読み方や「時間」の求め方では、学年全体として課題であることがわかってきました。このように、すべての領域で課題を克服するため算数プリントや計算ドリルを用いて多くの問題を解き、反復練習から定着を図ります。また、文章を読み取る力をつけるため、文章問題ではキーワードに着目させたり、文章をもとに絵や図に表して思考を整理したりして、課題を解決するようにていねいに指導していきます。

#### 《具体的な取り組み》

- (国語) ・話すテーマを決めて日常的に自分の思いや考えを伝える活動を増やす。  
・漢字の読み書き・文法・言葉のまとまりなど朝学や家庭学習で確実な理解の定着を図る。
- (算数) ・家庭学習や授業始めの計算プリントで反復練習を行い、計算の定着を図る。  
・具体物を用いたり、操作活動をしったりして実感を伴った理解の定着を図る。  
・文章問題では、問題文をしっかり読むことやキーワードに着目し図や絵を用いて考える方法を身につける。

### 4. 家庭学習にかかわって

家庭学習として、「漢字」「計算」「音読」の3つを基本としています。計算ドリル以外にも算数プリントを宿題として出すこともあります。その日の授業の復習であったり、今までに習った筆算の練習問題であったりが主な内容になっています。とくに、計算力をつけるためには反復練習が必要です。ドリルやプリント以外にも計算カードで声に出して読むことやタブレット「ミライシード」で繰り返し練習するなど、確実な力つけていけるよう働きかけます。また、自ら課題を見つけて取り組む力をつけるためにも自主学習の課題も出していこうと考えています。

家庭学習振り返り週間の取り組みから、平日には家庭学習に時間をかけて取り組んでいる様子がわかってきました。一方で、休日になると生活習慣が乱れてしまったり、家庭学習をおろそかにしてしまうなどの傾向があります。また、家庭で読書の時間を設けている子が少ないという課題も見られました。学校で出た宿題だけでなく、自分の課題や興味関心のあることに自ら意欲的に取り組めるよう自主学習の仕方を指導していきます。また、読書に親しむことで感性を豊かにし、話す・書く基礎となる語彙を増やすなど、自主学習と併せて家庭学習が充実したものになるよう指導していきます。